

平成 29 年度 職場の年末安全衛生推進運動実施要綱

愛知労働局・労働基準監督署

1 趣 旨

愛知県内における労働災害の死亡者数は、平成 28 年に過去最少を記録したものの、なお 43 人の尊い命が失われました。休業 4 日以上死傷災害については、増減を繰り返しながらも長期的には減少傾向にあります。平成 28 年は前年より 11 人の増加となり、6,360 人が被災しています。

本年の死傷者数は、昨年同時期を上回る件数で推移しており、平成 29 年において、平成 24 年と比較して労働災害による死傷者数を 15%以上減少（5,433 人以下）させることとする第 12 次労働災害防止推進計画の目標達成が困難な状況となっており、尚一層の安全衛生管理活動の推進により、災害防止を図ることが必要となっています。

このような中、年の瀬を迎える慌ただしさの中で、不幸な労働災害により、働く仲間の誰一人としてケガすることなく、明るく新たな年を迎えられるよう、危険源の性質に着眼したリスクアセスメントの手法を用いた論理的な安全衛生管理の推進と定着による労働災害の防止を図るため「平成 29 年度 職場の年末安全衛生推進運動」を展開します。

2 推進スローガン

「 無災害 みんなで迎える 明るい新年 」

3 職場の年末安全衛生推進運動目標

論理的な安全衛生管理の推進・定着による労働災害の防止

4 平成 29 年度 職場の年末安全衛生推進運動 実施期間

平成 29 年 12 月 1 日 ～ 平成 29 年 12 月 31 日

5 主 唱 者：愛知労働局・各労働基準監督署

6 協 賛 者：中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター、建設業労働災害防止協会愛知県支部、陸上貨物運送事業労働災害防止協会愛知県支部、港湾貨物運送事業労働災害防止協会東海総支部、林業・木材製造業労働災害防止協会愛知県支部、(独)労働者健康安全機構愛知産業保健総合支援センター、(公)安全衛生技術試験協会中部安全衛生技術センター、(公)愛知労働基準協会、各地区労働基準協会、(公)建設荷役車両安全技術協会愛知県支部、(一)日本ボイラ協会愛知支部、(一)日本クレーン協会東海支部、日本労働安全衛生コンサルタント会愛知支部

7 主唱者及び協賛者の実施事項

- (1) 局署幹部と労働災害防止団体幹部との合同パトロール
- (2) 職場の安全衛生推進運動啓発のポスター・リーフレット配布等広報
- (3) 事業者の行うリスクアセスメント等への支援・指導

8 事業者の実施事項

- (1) 経営トップによる安全衛生への所信表明と職場巡視
- (2) 危険源の性質に着眼したリスクアセスメントの手法による災害防止対策
 - ア 「危険性又は有害性等の調査等に関する指針」による対策検討
 - イ 職場内で使用される化学物質の安全データシート（SDS）情報に基づく管理
 - ウ 応急対策のまま、リスク対応が先送りされている箇所の恒久対策処置
- (3) 学生アルバイト等新規採用者への雇い入れ時安全衛生教育の確実な実施
- (4) 学生アルバイト始め未熟練労働者への OJT による安全作業方法の習熟訓練
- (5) 腰痛予防、薬傷防止等化学物質対策、過重労働防止・メンタルヘルス対策等の推進

平成 29 年度職場の年末安全衛生推進運動への取組要請

平成 29 年

愛 知 労 働 局 長

労働災害による休業 4 日以上の被災者数は、増減を繰り返して毎年約 6500 人で推移している状況にあり、これら労働災害による被災者を減少させるためには、危険源の性質に着眼してリスクアセスメントの手法を用い、論理的な安全衛生管理を推進・定着させ、各作業における確実な労働災害防止対策を図る必要があります。これから迎える年末の繁忙から来る注意散漫や安全衛生対策の不徹底から発生する労働災害を防止するため、以下の取組をお願いします。

1 全業種の事業場で取組む事項

- (1) 経営トップが安全衛生管理方針についての所信表明を行い、運動期間中に職場巡視を行うなど率先して積極的に取り組み、労働者の安全意識高揚のための啓発を実施。
- (2) 設備・機械等の危険源の性質ごとに安全衛生対策が適切に講じられているか、リスクアセスメント手法等を用い対策状況を確認し、より安全な対策への移行が図れないかを検討。
- (3) 「故障中」、「要修理」等の表示のまま放置された設備や、仮囲い、三角コーンやトラロープによる接近防止のための応急対策のまま、大きなリスクを放置しているような箇所への適切な恒久的安全衛生対策の実施。
- (4) 職場で使用している化学物質について、譲渡者・提供者等から安全性データシート（SDS）を入手し、その SDS 情報を利用した、ばく露防止等安全な取扱い方法や異常時の対処方法等の教育、保護具の点検などの安全衛生管理の実施。
- (5) 各労働者による安全衛生作業マニュアルの再読・再確認による安全作業手順の遵守。
- (6) 時節柄、積雪・道路凍結等自然環境への対応として靴等の滑り止め、冬用タイヤへの換装、チェーン等の準備。
- (7) 腰痛予防、過重労働防止、メンタルヘルス対策等の推進

2 業種毎で取組む事項

ア 製造業・商業・接客娯楽業

冬休みにおける学生アルバイトの就労増加、年末年始の繁忙対応のために採用されるパート等臨時作業員などへの就業時の安全衛生に関する雇入れ時教育の確実な実施と、未熟練な作業員への OJT による安全作業方法の習熟訓練の実施等。

イ 建設業

年度末竣工等をひかえ、入場労働者数が増加する傾向にある年末に、繁忙のため新規入場者教育が省略されることがないように、業界として教育の徹底と、安全な作業床と昇降設備の確保を前提とする墜落防止対策の徹底。

ウ 道路貨物運送業・陸上貨物取扱業

年末用品等の配送増加など繁忙が予想されることから、長時間運転等による過重労働の発生抑止のほか、交通労働災害防止対策のためのガイドライン、荷役作業の安全対策ガイドライン等に基づく管理の徹底。